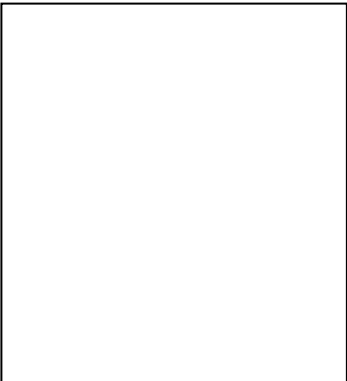


一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 平成25年度第3回社員総会 議事録

作成日：2014年3月12日

作成：事務局

【席 順】

	和 田	太 田	鈴 木	中 野	
木村					永井
伊藤					英
石垣					満岡
川島					岡田
吉田					市原
小笠原					長尾
					紅 谷

日 時	2014年3月1日(土) 18:30~20:30		
場 所	グランドホテル浜松 エグゼクティブルーム		
出席者	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	石垣 泰則	静岡	城西神経内科/コーラルクリニック
	和田 忠志	千葉	いらはら診療所
	太田 秀樹	栃木	おやま城北クリニック
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅医療クリニック
	伊藤 光保	愛知	内科伊藤医院
	岡田 孝弘	神奈川	オカダ外科医院
	川島 孝一郎	宮城	仙台往診クリニック
	川越 正平	千葉	あおぞら診療所(上本郷)
	木村 幸博	岩手	もりおか往診クリニック
	永井 康徳	愛媛	たんぽぽクリニック
	英 裕雄	東京	新宿ヒロクリニック
	平原 佐斗司	東京	梶原診療所
	市原 利晃	秋田	秋田往診クリニック
	小笠原 文雄	岐阜	小笠原内科
	満岡 聡	佐賀	満岡内科消化器科医院
	吉田 大介	徳島	徳島往診クリニック
	長尾 和宏	兵庫	長尾クリニック
	紅谷 浩之	福井	オレンジホームケアクリニック

<p>議題等</p>	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項 世話人 近況・活動報告 事務局 教育・研修局 ICT局 調査・研究局 在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム</p> <p>3 議事 第1回 全国大会（2014年3月22日～23日）について 第2回 全国大会について 診療報酬改定について ホームページの運用について その他 26年度開催日程 案) 平成26年5月10日（土）岡山市 *日本プライマリ・ケア連合学会 初日 平成26年11月22日（土）名古屋市*第10回在宅医療推進フォーラム 前日</p>
<p>議事等</p>	<p>(1) 開会 太田：平成25年第3回全国在宅療養支援診療所連絡会 世話人会議を始めさせて頂く。 本日会長は、日本臨床倫理学会を開催している為欠席されているが、ご意見は伺っている。</p> <p>(2) 報告事項 ○世話人近況報告 鈴木：日本プライマリ・ケア連合学会に、第1回全国大会への協賛金を出してもらえたことになった。先日、全国の理事選があり落選した。近くブロック理事選があるので、是非皆様にご支持いただきたい。地域では、秋山正子さんの「暮らしの保健室」を設置したいと考え、商店街の皆様と議論を始めた。来年春のオープンを目指していく。</p> <p>中野：本日、ケアタウン・ナカノのオープン式を終えてきた。施設型・在宅型のモデルを試行していきたい。</p> <p>永井：第1回全国大会について、後ほど。</p> <p>英：2月9日に東京都在宅医療推進フォーラムを開催した。診療報酬改定にあたり在宅専門医療機関のあり方等について話題となった。在宅医療に至る過程の重要性を感じている。</p> <p>満岡：在宅ネット佐賀で活動をしている。8月23日に弁護士・難病患者・ジャーナリストと県医師会とシンポジウム開催を予定している。</p> <p>岡田：昨年12月7日に神奈川県在宅療養支援診療所連絡会を立ち上げ、46名の参加があった。会員は60数名に。神奈川県医師会の常任理事が会長に就き、医師会とも協働していけそう。</p> <p>市原：昨年秋田県と秋田市では、多職種連携ネットワークの強化の活動をしてきた。今年は、そこに医師会を加えて更に連携を深めたい。3月15日に医師会で医療を考える集いがあり、そこでシンポジストとして在宅医療の話をする。</p> <p>平原：北区在宅ケアネットでは行政・医師会・在支診・その他専門職の協働で活動している。来年からは、区が主体となって展開していく予定。有床診療所について、上手くいっているが経営は難しい。</p> <p>川越：2月に日本医事新報社から「在宅医療バイブル」を出版した。</p> <p>小笠原：拠点事業の一環で岐阜県全域において岐阜県在宅療養支援診療所の仲間で1億2千万円の事業を展開しているが、岐阜市医師会とは上手くいっているが、県医師会とは少し行き違いがあり、関係が難しくなった。</p> <p>長尾：一昨日、和歌山県に講演に行ったが、和歌山にも支部ができそうな勢いが感じられた。</p>

吉田：徳島では、来週小笠原先生の講演会を予定。拠点事業について、県から市町村に打診したが手を挙げたのは3箇所のみ。その他の枠で受けたいが、県担当者より、1診療所では不可能とのことで、全国在宅療養支援診療所連絡会からの推薦ということで、伝えてよいか。

太田：問題ない。そういうところから、関係を築いて欲しい。

川島：国では終末期医療という言葉控え、人生の最終段階という表現に置き換えている。人生の最終段階における医療について、法整備をするのではなく個々の人生を尊重していく方向性。診療報酬改定について、問題提起をしていくべきである。

石垣：昨日の在宅医学会の理事会でも診療報酬改定について話題となった。在支連・在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワークと合同で意見を示していきたい。

伊藤：愛知では県の地域包括ケアに関する委員会の中に在宅療養支援診療所のメンバーが入り、春と秋に連絡会を開催。その中で県は自立支援のための地域包括ケアシステムについて取り上げたが、在宅医療という言葉は出てこなかったが、最終的には、在宅療養支援診療所を活用するべきという一文を入れられた。

木村：若い在宅医療を行う医師を集めて連携を図ろうと飲み会をした。拠点事業については、盛岡市が動かず、県から当法人に委託された。在宅医療機器整備事業については、県内に8か所。

和田：千葉県・高知県に在宅療養支援診療所連絡会支部を立ち上げようと、ネットワークを構築しつつある。週に1日は国立長寿医療研究センターに行っている。

太田：年度末は、地方に講演に回り忙しい。厚労省は在宅医療について最優先課題という認識でいる。今回の診療報酬改定については後程。

○事務局

太田：会員は微増。詳しくは配布資料を。

○教育研修局

和田：次年度も在宅医療推進フォーラムについては、引き続きご協力をお願いしたい。来年度は中国地方でも開催したい。

DVD「はじめよう在宅医療」は英語訳を行っている。

国立長寿医療研究センターの「在宅医療現場の栄養調査」は、引き続き協力している。

国立長寿医療研究センターの「被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究」において、今年度は約13,000か所の在宅療養支援診療所に在宅医療教育に関するアンケートを行った。結果については、配付資料 別紙①参照。紹介業者についての質問も設けたが、「紹介を受けたことがある」が37.9%という結果。

研究事業を行うに当たり倫理審査の必要性が生じ、今まで2回の暫定倫理委員会を行っている。

○ICT局

中野：診療報酬改定についてMLで活発な意見交換が行われている。HPについては、大幅にリニューアルされ、今後活用していきたい。

○調査研究局

川島：厚生労働省が近く、老人保健健康増進等事業の公募を行う予定。詳しくは、厚労省HPを。

(3) 議事

○第1回 全国大会(2014年3月22日～23日)について

永井：大会参加申込者は、360名。MLでの議論が活発になったら参加申し込みも増えた。会員と非会員は半々。懇親会は、162名で締め切った。日本プライマリケア連合学会・在宅医療助成勇美記念財団・日本医師会の共催。厚生労働省・東京都医師会が後援。300名の参加で赤字が出ない予算を立てたので、そこはクリアできた。未納者が多いが続けて請求していく。開会式はプロの司会者。懇親会は、新田先生の挨拶、鈴木先生の司会でお願いしたい。

	<p>石垣：1日目「在宅医療の診療報酬について考える」を変更。「緊急討論—26年度診療報酬改定について考える」とし、厚労省の方も登壇予定にしている。</p> <p>太田：話題性があるので、参加者も増えるだろう。メディアにも、お知り合いの方がいたら是非声を掛けて欲しい。</p> <p>○第2回 全国大会について</p> <p>永井：次年度については。</p> <p>太田：今後も続けていきたい。</p> <p>川島：診療報酬改定についての討議は、10月から11月くらいに行われているので、診療報酬改定前年の9月頃に開催すれば、現場の実状を伝えられるのではないかと。より良い在宅医療推進の為の提言が出来ればよいと思う。</p> <p>太田：27年度は9月開催を目指すこととして、26年度は、12月～1月頃か。</p> <p>永井：まずは、誰がどこで行うか。今回、申し込みシステムの構築が済んでいるので、使用可能。</p> <p>英：東京で行うなら、私がやっても良い。</p> <p>太田：集客を考えると、しばらくは東京で行うのが良いと思う。</p> <p>26年度は、同会場にて英先生にお願いすることで良いか。 ⇒承認</p> <p>英先生のご都合と会場の状況で日程を決める。 ⇒承認</p> <p>27年度は。</p> <p>川島：27年度は、9月から10月頃に私が。</p> <p>太田：27年度は川島先生にお願いすることとする。 ⇒承認</p> <p>今年、共催・後援等頂いた団体については今後もよい関係性を続けていきたい。</p> <p>○診療報酬改定について</p> <p>太田：今回の診療報酬改定について、先ほどの石垣先生からのご提案は、苦言を呈するのではなく、現場の意見を国に届けるということでよいか。</p> <p>石垣：現場の意見を、国民目線で届けたい。</p> <p>川島：賛否様々な意見を届けるべき。</p> <p>太田：両論併記で、現場の意見を届けることとする。 ⇒承認</p> <p>永井：会員MLで、そのような動きを知らせて欲しい。 ⇒承認</p> <p>太田：時期については最終連絡が出てから、MLで意見を頂き2週間程でまとめて提出する。</p> <p>中医協で決められた内容で中医協には医師会も含まれ、医師会も反対ではない。医師会と併走していかなくてはならない。</p> <p>○ホームページの運用について</p> <p>中野：大会申し込みシステムも出来ている。来年度の大会に向けても充実させていきたい。</p> <p>○26年度開催日程</p> <p>太田：日本プライマリ・ケア連合学会に併せ、5月10日（土）岡山市でよいか。</p> <p>鈴木：在宅医療学会は、5月24日25日に倉敷。新田会長のご都合に合わせてはどうか。</p> <p>太田：5月10日岡山市、5月24日倉敷市を候補日として、会長の都合に合わせて。 ⇒承認</p> <p>第2回は、11月22日（土）名古屋市で第10回在宅医療推進フォーラム前日に開催する。 ⇒承認</p> <p>(4) 閉会</p>
資料	<p>○議事次第 ○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿・会員状況</p> <p>○HP操作マニュアル ○教育・研修局より ○在宅だからICF！</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会 準備状況報告</p> <p>○全国在宅療養支援診療所連絡会 平成25年度第2回社員総会 議事録</p>
事務局	<p>岩本 佳代子</p>